

氏名	浅井 宏美	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学、助産学、周産期医療・看護、新生児看護				
学位	博士（看護学）				
学歴	2008年聖路加看護大学大学院看護学研究科博士前期課程修了、 2015年聖路加国際大学（旧聖路加看護大学）大学院看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	2008年～首都大学大学健康福祉学部助教、2010年～聖路加看護大学看護学部助教、2015年～埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年～同大学准教授				
所属学会（役職）	日本母性看護学会（専任査読委員）、日本助産学会、日本看護科学学会、日本母性衛生学会、日本生殖看護学会、日本小児看護学会、日本新生児看護学会、日本国際看護学会、埼玉県立大学保健福祉科学学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	助産師基礎教育テキスト2026年版 第6巻 新生児期・乳幼児期のケア 第4章 新生児 のニーズとケア	共著	あり	日本看護協会出版会、 全245ページ		編集責任 江藤宏美，著者 岡永真 由美，常盤洋子，井村真澄， <u>浅井</u> 宏美，他5名	2026.2
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ペー ジ	著者、編者名	発表等年月
1	高校生ヤングケアラーの支援者間連携に おける促進因子と阻害因子	共著	あり		保健医療福祉連携 19 巻 1 号（1月26 日受理：印刷中）	辻玲子，水間夏子，上原美子， <u>浅</u> <u>井宏美</u> ，東口晴菜，常盤文枝	2026.1
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	ペリネイタル・ ロスを経験した親のケ ア・ニーズに関する文献検討（査読有）	共同	第27回日本母性看護学会学 術集会（浦安市）		○高野佑子， <u>浅井宏美</u>		2025.6.14
2	幼年期の父親の育児参加状況と青年期の 父娘関係との関連性について（査読有）	共同	第27回日本母性看護学会学 術集会（浦安市）		○岩崎朱里， <u>浅井宏美</u>		2025.6.14
3	周産期看護職のメンタル向上を目指した 教育プログラム開発のための試行研修 （査読有）	共同	日本小児看護学会第35回学 術集会（仙台市）		○ <u>浅井宏美</u> ， <u>齋藤香織</u>		2025.7.6
4	A県における高校生ヤングケアラーを支 援するスクールソーシャルワーカーの 実践と支援上の課題（査読有）	共同	第18回日本保健医療福祉連 携教育学会学術集会（品川 区）		○水間夏子，辻玲子，上原美子， <u>浅井</u> <u>宏美</u> ，東口晴菜，常盤文枝		2025.10.26
5	産科医療施設に おける看護職の性役割態 度の実態（査読有）	共同	第41回埼玉県母性衛生学会 （さいたま市）		○只隈希実，齋藤恵子，兼宗美幸， <u>浅</u> <u>井宏美</u>		2025.11
6	【交流集会】 K-15「新たな概念『ネガ ティブ・ケイパビリティ』の視点からの 意思決定支援」（査読有）	共同	第45回日本看護科学学会学 術集会（新潟市）		○井上みゆき，白松裕， <u>浅井宏美</u> ， <u>齋</u> <u>藤香織</u> ，竹島雅子，渡邊勇太，二宮佑 季		2025.12.6
7	高校生ヤングケアラーのJ-KIDSCREEN- 27を用いたQOL評価（査読有）	共同	第45回日本看護科学学会学 術集会（新潟市）		○東口晴菜， <u>浅井宏美</u> ，辻玲子，水間 夏子，常盤文枝，上原美子		2025.12.7
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	該当なし						

2. 競争的資金等の研究				
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	「高校生ヤングケアラーのQOLに資する支援者間連携モデルの構築」	研究分担者	2023.4～継続中
2	埼玉県立大学奨励研究（科研費採択支援助成）	「ネガティブ・ケイパビリティを養う教育プログラムの開発：周産期看護職への試行研修」	研究代表者	2025.4～2026.3
3	埼玉県立大学奨励研究（A研究）	「埼玉県立大学が地域の子どもに聞く『からだプログラム』の開発」	研究分担者	2025.4～2026.3
3. 教育業績				
（1）講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ハイリスク周産期		1	本科目は、4年次生（助産系履修者必須、他は選択科目）履修者39名を対象にハイリスクにある妊産婦・新生児へのケアを学修する内容である。臨床で活躍する産婦人科医・看護職を非常勤講師・ゲストスピーカーとして招き、より実践的な内容が学習できるような構成になっている。2023年度までは科目責任者を担当していたが、2024年度からは科目担当者として、ハイリスク妊産婦・新生児への看護について講義し、病棟内のケアの画像やDVD教材などを活用し、実際の看護について理解が深められるよう工夫した。また、科目責任者と協力して非常勤講師やゲストスピーカーとの連絡調整を行った。
2	母性看護学Ⅱ（方法論）		5	本科目は、2年次生の履修者約130名を対象に妊娠・分娩・産褥期について学習する母性看護学実習の先修要件となる科目である。「産褥期の看護」の授業5コマおよび「退行性変化」や「看護過程」演習8コマの演習を担当した。「産褥期の看護」では、褥婦の産後の生理的变化に関する基本的なアセスメント、観察の視点や看護技術について講義し、動画教材を活用して理解が深まるよう工夫した。
3	看護倫理		3	大学院博士前期課程の科目担当者として、「研究倫理」および「生殖医療・周産期医療における倫理調整」の講義を担当した。本科目は教員の講義に加えて、ゼミ形式で倫理調整が必要となる各テーマに沿った院生のプレゼンと討議を通して、倫理的課題を理解するものである。討議では、倫理的課題を多角的な視点から分析、捉えることができるようファシリテートし、お互いの意見を尊重し、自身の倫理的感受性を高められるよう支援した。
（2）演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	分娩期のケア		16	4年助産系学生を対象に新生児蘇生法の演習の主担当、分娩介助技術のデモンストレーション（産婦役として実践）、助産過程の演習などを担当した。演習では事前に電子ブック教材の視聴や事前課題を課すなど、学習効果を上げるを工夫した。分娩介助実習の前に知識・技術が定着するよう、時間割のコマ以外にも学生の介助技術練習への個別の指導なども実施した。

2	周産期のケア		8	3年次助産系履修学生を対象に、妊娠期・胎児のヘルスアセスメントとケアの講義を担当し、画像を多く取り入れた講義スライド、DVD教材などを活用し、イメージ・理解が深められるような工夫をした。また、妊産婦への分娩監視装置（CTG）装着のための演習担当として、学生を2人1組で妊産婦役・助産師役となりロールプレイを通して、実際の装着技術・コミュニケーションスキルを磨く演習を展開した。模擬集団教育のためのグループ毎の演習では、学生の最終成果発表会に出席し、各グループへの評価コメントにて、学生へのポジティブフィードバック、より良い展開のための助言を行い、実践的な学びに繋げることができるよう教育的に関わった。
3	母性看護学Ⅱ（方法論）		9	2年次生の履修者約130名を対象に、産褥期の「退行性変化」の演習では、小グループに分かれて看護者役・褥婦役のロールプレイを取り入れて、主担当の教員と協力し、全ての学生が看護者役として実践できるようにグループ内でファシリテートしながら運営した。産褥期の腹部モデルを用いて、基本的な看護技術および観察・アセスメントの視点を修得できるよう指導・支援した。また、看護過程のグループ演習の担当教員として効果的な議論ができるようファシリテート・支援した。
4	リプロダクティブヘルスと看護		3	3年次生の履修者約70名を対象に性と生殖に関する健康と権利（SHRH）に関する多様なニーズと看護活動、看護職の役割について学ぶ科目であり、グループ演習の担当教員として関わった。本科目への主体的な参加・活発な議論を促すためのファシリテート、各学生の発表用スライドの個別指導を行い、演習での学びが深まるよう支援した。また、円滑な科目運営が行えるよう科目責任者・他の担当教員とも連携・調整を図りながら、科目責任者が作成したルーブリックを活用して評価した。
5	助産業務管理		1	本科目は、助産系4年次生17名の限定科目であり、助産業務管理はじめ、助産師のコアコンピテンシー・キャリアラダー制度などの卒後教育なども含んだ構成である。具体的には、臨床で活躍する周産期母子医療センターの助産師をゲストスピーカーとして、身近なロールモデルからの実践的な内容の講義も含んでいる。2023年度は科目責任者であったが、2024年度からは、科目担当者として、国家試験へ向けたモチベーション向上のため、助産系の履修科目の総まとめとして、国家試験対策講義を担当。円滑な科目運営が行えるよう担当責任者の教員とも調整を図った。
6	遺伝と看護	○	8	4年次生履修者20名を対象に本科目への目的意識・意欲を高め、主体的な参加を促すため、導入となる初回講義や効果的なグループダイナミクスが働くような工夫とファシリテートを行い、看護職者として必要な倫理的感受性・態度が身につくよう支援した。また、障がいを持つ子ども育てる当事者をゲストスピーカーとして招聘、体験談の語りから学生への効果的な学びにつながるよう調整し、円滑な科目運営が行えるよう科目責任者・他の担当教員とも調整を図った。
7	リプロダクティブヘルス論		4	本科目は、大学院博士前期課程の履修者を対象に周産期にある女性と家族における健康増進に関連する課題および、各ライフステージにおける女性の性と生殖の健康増進に関連する課題について学ぶ科目である。科目担当者として、①周産期のファミリーセンタードケア、②周産期領域の多職種連携に関する講義、計4コマを担当した。教員の講義に加えて、修士課程1年目の院生とのゼミ形式での文献抄読やプレゼンテーションを通して、修士課程2年目に向けて自身が取り組む研究テーマを見出し研究計画作成に向けた指導・支援を行った。

8	看護学演習（リプロダクティブヘルス）		15	本科目は大学院博士前期課程の科目であり、生涯を通じた女性の自己決定とセルフケアの向上を目指した女性の健康支援の方法を学びながら、履修者自身の修士論文研究計画書を作成するための科目である。前期の「リプロダクティブヘルス論」に続き、ゼミ形式での文献抄読を通して、プレゼンテーションスキルや論文のクリティーク（批判的吟味）の手法を学べるよう支援し、各自の研究テーマが有意義かつ新規性のある具体的な研究計画書となるよう、具体的な調査方法についても倫理的配慮として講じる具体策、実現可能性の観点から、科目責任者・担当者と共に多角的に助言・支援を行った。
（３）実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学実習	○	2025/5/7～6/27 （8週間の実習 引率）	看護学科３年次生、履修者134名の科目責任者として各実習施設との事前打合せ、学生配置・担当教員の配置検討はじめ、実習全体の科目運営・統括を行った。臨地実習（春日部市立医療センターおよび川口市立医療センター）での実習指導、教員（助教）の教育指導・フォローを行った。COVID-19の影響が残る臨地実習で不安の大きい学生に対して、安全確保に留意し、個々のレディネス・能力に応じた受け持ち対象者への看護実践、看護過程の記録展開指導、カンファレンスの運営指導等を行い、概ね例年通りの目標達成ができた。また、実習２の実習先として埼玉県や越谷市の公的施設である男女共同参画施設や、NGO多文化共生協働センター・川口での実習を責任者として担当し、実習引率者としても関わった。
2	総合実習（母性看護学領域）		2025/7/8～7/24 (3週間の病院実習担当)	4年次助産系学生2名を対象に越谷市立病院での実習を引率・指導を担当した。COVID-19の影響が残り、臨地実習経験が少なく不安の大きい学生に対して、安全確保に留意し、個々のレディネス・能力に応じた受け持ち対象者への看護実践、看護過程の記録展開指導、カンファレンスの運営指導等を行った。事前事後学習および3週間の実習指導を通して、4年次の実習目標を達成し、期待した学習効果を上げることができた。
3	助産学実習Ⅱ		学外実習： 2025/8/18～ 9/26(6週間)	2025年度に新規開拓した実習施設で4年次助産系学生2名の実習施設担当教員として担当した。実習先は初めて助産学実習を受入れる施設であり、本学の助産師教育に関する基礎的な内容から説明し、施設の事務局長・管理職や臨床指導者と様々な事前の調整をした上で、実習中も各担当者と連携を図り、実習指導に携わった。学生の実習環境を整えて頂いたことで、学生達は分娩進行状況のアセスメントとケア、分娩介助技術についてより実践的に学ぶことができ、最終的に実習目標を達成することができた。
4	IPW実習		学内オリエンテーション２回 ＋ 学外実習3日間 （9/30～10/2） ＋学内報告会1日（10/3）	2023年度から対面での臨地実習が再開し、２チームの施設のリーダーFT教員として、施設FTおよび学内教員FTと入念な打合せ・調整をして運営に臨んだ。受け持ち対象者や多職種の専門職インタビューを通して、もう１名の担当教員と協力し、他大学含む学部学生6名×２グループの引率、実習指導を行った。施設FTとの連携・協働を心がけ、グループ討議では、主体性を尊重しつ、学生の能力を引き出し議論が活発になるようなファシリテート、チーム形成を促し、最終発表会へとつなげることができた。
（４）論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2025.4～2026.3	主指導 3名	副指導 0名
2	修士論文	2025.4～2026.3	主指導（指導教員） 0名	副指導（指導補助教員） 1名

(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	3・4年生助産系関連科目履修者の学修支援・就職活動支援	2025.4～2026.3	助産系関連科目の担当教員として、3・4年生の助産系履修者の学修支援・就職活動を支援した。	
2	保健師助産師関連科目履修者選考委員	2024.4～2026.3	助産師養成課程の選考に関する変革前の過渡期であり、定員数・選考方法等に関する検討に従事。	
3	看護学科卒業研究 科目運営担当	2025.4～2026.3	看護学科卒業研究の科目運営担当として、履修学生への3年生オリエンテーションや各領域への配置検討、4年次生の卒業論文編集作業などの科目運営に従事。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	新生児集中ケア認定看護師教育課程講義	獨協医科大学地域共生協創センター	新生児集中ケア認定看護師教育課程 「子どもと家族の理解」のうち子どもや家族と関係性を形成し、接近するために必要な基本知識	2025.6
2	2025年度リアル体験教室「看護師になりたい」（小学生対象、埼玉県との共催）	埼玉県・埼玉県立大学共催	2025年度リアル体験教室「看護師になりたい」（小学5～6年生対象、定員30名） 座学「周産期で働く看護師について」、体験：①妊婦健診体験、②新生児の抱っこ・オムツ交換・バイタルサイン測定体験	2025.11
3	小学校出張講座（さいたま市立太田小学校）	本学地域産学連携センター	出張講座「一緒に考えよう いのちの授業」	2025.11
4	周産期看護職対象ピアサポートセミナー	本学奨励研究（科研費採択支援助成）	「ネガティブ・ケイパビリティを養う教育プログラムの開発：周産期看護職への試行研修」	2025.12
5	日本助産評価機構CLoCMiPレベルⅢ(アドバンス助産師)必修研修会	さいたま市立病院	日本助産評価機構CLoCMiPレベルⅢ(アドバンス助産師)必修研修会「倫理的感能力 意思決定支援」	2026.1
6	東京都周産期コーディネーター連絡会	東京都保健医療局医療政策部	東京都周産期コーディネーター連絡会 「ファミリーセンタードケアの理論と実践」	2026.1
7	中学校出張講座（春日部市立緑中学校）	本学地域産学連携センター	思春期の性教育出張講座「一緒に考えよう 私たちの性」	2026.2
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	一般社団法人 日本母性看護学会		「日本母性看護学会誌」専任査読委員	2025.4～2027.3（継続中）
2	日本母性看護学会		第27回日本母性看護学会学術集会実行委員	2025.5～2025.7
3	草加市健康づくり課		「草加市健康づくり審議会」委員	2022.4～継続中
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称		内容	年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	特定非営利活動法人 NGO多文化共生協働・川口	看護学科3年次生の母性看護学実習の一環で多文化共生を学ぶ見学実習の様子が多文化共生社会を実現するための支援団体「NGO多文化共生協働・川口」のHPに掲載され、一般市民に広くその重要性を啓発するための地域貢献の一助となった。	2025.7～2026.3

5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	学科等における委員会等	保健師助産師関連科目履修者選考委員	2024.4～継続中
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	第41回埼玉県母性衛生学会 最優秀演題賞受賞 「産科医療施設における看護職の性役割態度の実態」	埼玉県母性衛生学会	2025.11
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		